

成人・老年看護学実習

I. 目的

成人期・老年期の特徴を理解し、対象およびその家族に適切な看護ができる知識・技術・態度を修得する。

II. 目標

1. 成人・老年看護学実習 I、II

- 1) 成人期・老年期にある対象とその家族を理解する。
- 2) 対象の健康レベルに応じた援助が実践できる。
- 3) 看護者としての姿勢・態度を身につけ自己の成長に向け努力できる。

目標	行動目標
1) 成人期・老年期にある対象とその家族を理解する。	<ol style="list-style-type: none">①対象の病態生理、治療、受け持つまでの経過が述べられる。②対象の現在ある症状、既往歴が述べられる。③対象の入院前の生活状態・本人の認識・家族の思いについて述べられる。④対象の生命過程から解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。⑤対象の生活過程から解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。⑥状態の変化に合わせて解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。
2) 対象の健康レベルに応じた援助が実践できる	<ol style="list-style-type: none">①対象の全体像のアセスメントを行い、ケアの方向性を導き出すことができる。②ケアの方向性に沿った計画を立案できる。③計画に基づいて安全・安楽に実施できる。④看護を実施した結果を整理できる。⑤実施した結果から必要に応じてアセスメントをし、行い整える内容を変更することができる。⑥実施した援助をケアのものさしを用いて評価できる。⑦様々な健康レベルにある対象の特徴と必要な看護が述べられる。
3) 看護者としての姿勢、態度を身につけ自己の成長に向け努力できる。	<ol style="list-style-type: none">①その場に応じた挨拶、言葉遣い、身だしなみ、態度が取れる。②報告、連絡、相談ができる。③対象と家族の思いを尊重し、主体的にコミュニケーションをとることができる。④グループメンバーと協力ができる。⑤積極的に専門知識・技術の学習、技術の経験ができる。⑥自分の行った看護を振り返り、意味づけができる。⑦自分の言動に責任が持てる。⑧自己の課題を明らかにし、達成に向けて行動できる。

2. 成人・老年看護学実習Ⅲ、Ⅳ

- 1) 成人期・老年期にある対象とその家族を理解する。
- 2) 対象の健康レベルに応じた援助が実践できる。
- 3) 対象に必要な看護を臨床判断の思考を用いて考えることができる。
- 4) 社会資源の活用と、保健・医療・福祉の連携について考えることができる。
- 5) 組織としての医療安全の取り組みを理解する。
- 6) 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる。

目標	行動目標
1) 成人期・老年期にある対象とその家族を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> ①対象の病態生理、治療、受け持つまでの経過が述べられる。 ②対象の現在ある症状、既往歴、使用薬剤が述べられる。 ③対象の入院前の生活状態・本人の認識・家族の思いについて述べられる。 ④受け持ち後の対象の病態と治療の経過を述べられる。 ⑤対象の生命過程から解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。 ⑥対象の生活過程から解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。 ⑦状態の変化に合わせて解決すべき課題、もてる力・残された健康な力を判断できる。
2) 対象の健康レベルに応じた援助が実践できる	<ol style="list-style-type: none"> ①対象の全体像のアセスメントから、ケアの方向性を導き出すことができる。 ②ケアの方向性に沿った計画を根拠に基づいて立案できる。 ③計画に基づいて対象の状態を判断し、安全・安楽に実施できる。 ④看護を実施した結果を整理できる。 ⑤実施した結果からケアの方向性に向かっているか、病状を踏まえアセスメントできる。 ⑥アセスメントから、必要に応じて行い整える内容を変更することができる。 ⑦実施した援助をケアのものさしを用いて評価できる。 ⑧様々な健康レベルにある対象の特徴と必要な看護が述べられる。
3) 対象の状態についてコンセプトを用いて理解を深めることができる。 (3年次)	<ol style="list-style-type: none"> ① 対象に重要なコンセプトを挙げるができる。 ② 重要なコンセプトについてアセスメントを行い、他のコンセプトとの関連について考えることができる。 ③ コンセプトに基づき必要な看護について考えることができる。
4) 対象に必要な看護を臨床判断の思考を用いて考えることができる。 (2年次)	<ol style="list-style-type: none"> ① 患者の状態判断において有用で最も関連した重要な情報に着目できる。 ② 患者のデータから現在起こっている状態を理由について判断できる。

	<p>③ 患者への介入計画を立案することができる。</p> <p>④ 積極的に情報収集・患者介入・ディスカッションに参加できる。</p>
5) 社会資源の活用と、保健・医療・福祉の連携について考えることができる。	<p>① 家族の介護状況について述べられる。</p> <p>② 対象に必要な社会資源について述べられる。</p> <p>③ 対象に必要な保健・医療・福祉がどのように連携されているか述べられる。</p>
6) 組織としての医療安全の取り組みを理解する。 (3年次成人・老年IV)	<p>① 病院内で安全対策がどのように行われているか言える。</p> <p>② 看護部としてどのように取り組んでいるか言える。</p> <p>③ 個々の看護師の責任がわかる。</p>
7) 看護者としての姿勢、態度を身につけ、自己の向上に努めることができる。	<p>① 報告、連絡、相談ができる。</p> <p>② 対象と家族の思いを尊重し、主体的にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>③ グループメンバーと協働ができる。</p> <p>④ 積極的に実習に取り組むことができる。</p> <p>⑤ 自分の言動に責任が持てる。</p>

Ⅲ. 実習単位・時期

成人・老年看護学実習Ⅰ～2年次前期	6～7月	実習3週間	2単位	90時間
成人・老年看護学実習Ⅱ～2年次前期	8～9月	実習3週間	2単位	90時間
成人・老年看護学実習Ⅲ～2年次後期	11～12月	実習4週間	4単位	120時間
成人・老年看護学実習Ⅳ～3年次前期	5月	実習3週間	2単位	90時間

Ⅳ. 実習場所 滝川市立病院 3階西、4階東、4階西、5階西、6階西病棟

Ⅴ. 方法

1. 患者を1名受持ち、新 KOMI チャートシステムを使用し、看護過程を展開する。
2. 成人・老年看護学実習Ⅰ、またⅡでの学びをまとめグループ内で発表する。
3. 成人・老年看護学実習Ⅲでの学びをまとめ実習報告会で発表する。
4. 成人・老年看護学実習Ⅳでの学びを事例研究としてまとめ発表する。
5. 各病棟の特徴に合わせて、健康レベル別の看護について学んでいく。

急性期看護実習 (3階西・4階西・5階西・6階西病棟)

- ・周手術期患者を受持つ。受持つことができない場合は、受持ち患者以外で周手術期の経過を学ぶ。手術室見学・ICU 見学を含む。(3階西・4階西病棟)
- ・内科疾患で生命の危機的状況にある患者を受け持ち、急性期看護を学ぶ。(5階西・6階西病棟)

回復期看護実習 (4階西・4階東・5階西・6階西病棟)

- ・退院や転院に向けてリハビリなどを行っている患者を受持つ。退院調整カンファレンスに参加し、多職種連携について学ぶ。

慢性期看護実習（4階東・6階西病棟）

- ・慢性期患者の生活を再構築する看護について学ぶ。透析室の見学を含む。

終末期看護実習（*成人・老年Ⅲから 3階西病棟・6階西病棟）

- ・可能な限り終末期の患者を受持ち、患者の援助を通して終末期看護を学ぶ。

6. 成人・老年看護学実習Ⅲの期間中は、臨床判断の実習中心に実施する。
7. 成人・老年看護学実習Ⅳは、可能な限り、今まで受け持ったことのない健康レベルの患者を受持つようにする。